

Careers 進路・就職

卒業生の主な進学・就職先

サービス

全日本空輸（ANA）
JR 西日本
JTB 西日本
NTT コミュニケーションズ
デロイトトーマツコンサルティング
エイチ・アイ・エス

製造

京セラ
キリンビール
島津製作所
トヨタ自動車
パナソニック
三菱重工業
日本アイ・ピー・エム
キャノン
資生堂

金融

三菱東京 UFJ 銀行
三井住友銀行
みずほフィナンシャルグループ
東京海上日動火災保険
日本生命保険
野村證券
日本郵政

マスコミ・出版

日本放送協会（NHK）
読売テレビ放送
朝日新聞
電通
博報堂
講談社
ベネッセコーポレーション
リクルート

独立行政法人

国際交流基金
日本貿易振興機構（JETRO）
国際協力機構（JICA）

公務員

国家公務員（外務省等）
地方公務員（奈良県、鳥取県、京都市等）
教員（三重県、大阪府、京都市等）

大学院進学

立命館大学大学院 国際関係研究科等
東京大学大学院
京都大学大学院

American University, School of International Service
Sciences Po, Paris School of International Affairs
International Institute of Social Studies in The Hague,
Erasmus University Rotterdam

Copenhagen Business School
Lancaster University
Royal Holloway, University of London

卒業生からのメッセージ

林 夏音さん
(1999 年卒業)



グーグル株式会社
エンタープライズ部門

国際関係学部でさまざまな異文化交流を経験したことが、「国際協力の現場で働きたい」という夢を叶える力を育んでくれました。衝撃を受けたのが、「グローバル・シミュレーション・ゲーミング」の授業。国際関係を疑似体験することが、他国やその国の人に思いを馳せる機会になりました。また留学生寮で留学生と生活を共にしたり、中国への交換留学で、第三世界の学生と仲良くなったことも得難い経験でした。3年半民間企業で働いた後、夢を叶えて青年海外協力隊としてブルガリアへ。2年間カザンラクという地域でボランティア活動に従事しました。国際関係学部で得た経験や学んだことはもちろん、たくさんの人とのつながりが、どんな場所でも私を支える財産となっています。

船越 郁美さん
(2013 年卒業)



大日本スクリーン製造株式会社

国際関係学部で学んでよかったのは、語学を通して幅広い学びを経験できたことです。入学当初から留学を目指して英語を勉強し、2回生の夏から10ヵ月間、スウェーデンのルンド大学に留学。欧州の経済について学ぶ他、スウェーデン語の習得にも力を入れ、現地の人々とのコミュニケーションを楽しみました。またスペインで開催された模擬国連大会に参加し、ヨーロッパの学生と国際問題について議論しました。語学を通して、世界中に友達を作れることを実感。生まれ育った京都から世界へ日本の良さを発信する仕事をしたいと当社に就職し、現在は海外の現地法人と英語でやりとりしたり、カンパニー会議の英訳を任されるなど、やりがいを持って働いています。

木村 凌さん
(2014 年卒業)



豊田通商株式会社

思い出深いのは、アメリカに留学した1年間です。現地の学生と同じ授業を履修。授業を録音して帰宅後も聞き返したり、先生の部屋に足を運んで質問したり、自分から積極的に行動することで、英語力不足を克服しました。そのおかげで後期からのゼミ形式の授業では、英語でプレゼンしたり、意見を言う力が格段に上がりました。高い目標を持ち、その達成に向かってたゆまず行動したことで、実りある留学生活になりました。就職先は、「地球社会の発展に貢献したい」という気持ちから総合商社を選択しました。現在は洗剤の原料となる石油化学品や油脂化学品を主に扱う部門に所属。原料調達や供給を通じて、雇用創出や環境問題への取り組みなどさまざまな地球課題の解決にも力を尽くしたいと思っています。

(国際関係学部校友会) 7,500 名の卒業生が現役生を支えます。

国際関係学部・研究科は創設以来20年以上の間、これまでに国際的視野と高い語学力をもった約7,500名の卒業生を送り出してきました。その中の多くの先輩が、外交官、国際機関職員、JICA等の国際援助機関、NGO等はもちろん、外資系を含めた多彩な業種で、国境を超えたグローバル・リーダーとして現在も活躍中です。国際関係学部・国際関係研究科の卒業生ネットワーク「国際関係学部校友会」が国際関係学部生をサポートします。



立命館大学
国際関係学部

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
TEL: 075-465-1211 E-mail: irpost01@st.ritsumeikan.ac.jp

先生方のプロフィール、先輩のメッセージなど最新の情報はこちら

<http://www.ritsumeikan.ac.jp/ir/>



フィールドワーク／SNS／少数民族／地域研究／国境／人口／家族／福祉／歌舞伎／オペラ／インターネット／ジャーナリズム／テレビニュース／スマートフォン／韓国／アジア／IT産業／マスコミ／インドネシア／海賊／平和構築／ODA／国際経済／カンボジア／メコン地域開発／東南アジア／タイ／開発経済学／多国籍企業／PKO／United Nations／国際機関／農村／食料／チャイナタウン／フェアトレード／農業／中国／経済成長／経済政策／ケインズ／外国直接投資／アベノミクス／貿易／EU／持続可能な開発／フードチェーン／台湾／東アジア共同体／ペルー／経済理論

立命館大学

国際関係

学部

College of

INTERNATIONAL
RELATIONS

Ritsumeikan University

日米関係／米中時代／ジャズ／黒人文学／日本語教育／外交／アメリカ／北朝鮮／アイルランド／イギリス／冷戦／経済摩擦／TPP／憲法9条／Japan Studies／平和教育／国際結婚／ジェンダー／英米文学／ナショナリズム／フランス／映画／ボランティア／文化人類学／宗教／移民／社会学／ラテンアメリカ／キリスト教／核兵器／軍縮／地雷使用禁止／NGO／国際関係理論／市民社会／SF／ゴジラ／地球温暖化／再生可能エネルギー／環境保全／気候変動／先端科学／クローン技術／原子力／国際政治／地方分権／国際法／生物多様性／宇宙法／日系アメリカ人／アフリカ／鉱物資源／世界システム論／グローバル化／ウナギ／ワイン／

AY 2016

イスラーム／言語／技術移転／民主化／麻薬／集団的自衛権／イスラエル／テロ／シリア／貧困削減／国際協力／中東／国際組織犯罪／ドル／IMF／ミャンマー／ユーロ／金融危機

Governance and
Peace Program

Development and
Sustainability Program

Culture and
Society Program

Introduction

国際関係学とは？

国際関係学 (International Relations) とは、一体いかなる学問なのでしょう。 「国際」とは、もともとは国と国とが出会うところを意味します。英語の International という語も、国 (nation) と国 (nation) の間 (inter) のという意味です。しかしながら、現在、国際関係が、「国と国の間の関係」にとどまらないことは言うまでもありません。複数の国から構成される国際連合のような国際機構や、非政府組織 (NGO)、多国籍企業、時には一人の個人さえもが国際関係に影響をあたえています。国際関係学は、「国と国の間の関係」にとどまらない、世界の諸現象・諸問題を対象にした学問であるということが出来ます。第二次世界大戦、冷戦、グローバリゼーションの進展などにより、国際関係の複雑さは増す一方です。また、そうした国際関係が私たち一人ひとりの生活に与えるインパクトも大きくなり続けています。

ウナギと国際関係

と、言われても、まだ「国際関係」は遠い世界の出来事のように感じるかもしれません。国際関係がみなさんの生活に与える影響を考えるため、ウナギを例にみてみましょう。ウナギと国際関係がどう関係があるの、と疑問に思うかもしれません。ウナギはとても栄養価が高いこともあり、日本では夏バテ防止のために「土用の丑の日」に食べる習慣があったりします。このウナギ、最近値段がとても高くなってきたことに気がついたでしょうか？ ウナギの稚魚、シラスウナギの不漁が続いていることが、ウナギ価格高騰の直接的な原因です。実は、ウナギの生態はまだ良くわかっていないところが多く、養殖もののウナギも、シラスウナギを捕獲して、大きく育てて出荷しているのです。

日本近海のシラスウナギをとり養殖を続けてきた結果、その数は激減してしまいました。そこで、日本は多くのウナギを中国などから輸入するようになりました。このウナギ、中国がヨーロッパウナギの稚魚を輸入して大きく太らせ、日本に輸出しているものです。中国での養殖が一因となり、ヨーロッパウナギの稚魚も激減し、絶滅危惧種に指定されるまでになってしまいました。すると、今度はアメリカから、アメリカウナギのシラスウナギが日本に輸入されるようになりました。みなさんが、何気なくウナギを食べていることで、実は日本にとどまらず、世界中のウナギが、絶滅のふちに追いやられているのです――。

「国際関係学的アプローチでウナギ問題に迫る」とは？

このような問題にアプローチするのが国際関係学です。第1に、シラスウナギの乱獲を規制して、絶滅を避け、資源回復を目指すなければなりません。しかし、ウナギはそもそも広い海域を回遊する魚です。また、ニホンウナギ、ヨーロッパウナギ、アメリカウナギいずれも味には大差ないことがあり、すべてのウナギが食べられています。そのため、日本だけでシラスウナギ漁を規制しても意味はなく、国際的な規制が必要になります。国際的なルール、国際条約をいかに作って規制していくのかを考えるためには、**法学**の知見を利用して、国際的な視点から考えていくことが重要です。

そうしたルールが簡単に形成できるわけではありません。たとえば、ニホンウナギのみを使用している業者は、海外のシラスウナギの輸入に反対してニホンウナギのシラスウナギ漁は続けられるよう求めています。その一方で、海外のシラスウナギを輸入している業者は、シラスウナギ規制全般に反対しており、利害が対立しています。ヨーロッパの国々では規制を求める声が強いですが、ヨーロッパでもシラスウナギ漁で生計を立てている人々は規制には消極的です。そうしたシラスウナギを輸入・養殖し日本に輸出している中国や台湾でも、また別の観点からシラスウナギ漁の規制やシラスウナギの輸出入規制に消極的な立場を取りがちです。このように、いかなるルールを作るのかということをめぐるのは、国境を越えてさまざまな利害関係が錯綜しており、それを調整して、ルールを作っていくためには、**政治学**の知見が必要となります。

さらに、法律を作ればそれで問題が解決できるわけではありません。法律を作って規制すれば、倒産・失業に追い込まれる人もいるでしょう。そうした人々をいかにサポートするのかという点も重要な課題です。そうした経済的苦境に立たされた人は、法律を守らず、密漁や密輸入を行うかもしれません。実際、今もシラスウナギ禁漁期の密漁は後を絶ちません。国内法の場合は、法律を破れば罰せられます。しかし、国際法においては法律違反をしても、国内法違反者と同じように罰することは困難です。世界政府が存在しないからです。そのため、ルールを守らせるためには、ルールを守った人が得をする仕組みを考えていく必要もあるでしょう。このあたりの課題に対処するためには、**経済学**の知見も重要になってきます。

世界のウナギの圧倒的大部分は日本人が消費しています。いくら栄養価が高いとはいえ、世界にはなぜあのように気持ち悪い見た目の魚を食べるのか理解できないと考える人も少なくありません。そうした考え方は、気持ち悪い魚を食べる日本人がおかしいのだから、日本人がウナギを食べるのをやめればよいといった主張に結びつきがちです。各国、各地域では食習慣はさまざまです。異なる文化的背景などに起因する軋轢や誤解を解くことは容易ではありません。しかし、各国、各地域にはそれぞれ異なる文化があるということをしっかりと理解した上でなければ、国境を越える問題をうまく解決していくことはできません。**社会学**、**文化人類学**といった学問の知見も必要とされるゆえんです。

このように、ウナギのような身近な、一見国際関係とは無関係のように見える問題ですら、世界中のさまざまな人々が関わっており、問題解決にはさまざまな角度から考えていかなければなりません。国境を越える問題について、法学や政治学、経済学、社会学などといった多様な学問の知見を総合して考えていく学問、国際関係学が必要とされ、その重要性が日に日に増しているのはそうした理由からなのです。

立命館大学国際関係学部であなたの「ウナギ」を見つける

立命館大学国際関係学部では、学生と教員がそれぞれの「国際関係学」に取り組んでいます。ファストフードの「ハンバーガー」をとっかかりとして地球環境問題に迫ろうとした1回生グループ、スポーツの祭典「オリンピック」が国際的な平和構築へ果たす役割を卒業論文で論じた4回生、「ワイン」から世の中の変化を見通そうと試みる教授――。一見すると「国際関係」とはあまり縁のなさそうなモノやコトでも、先の「ウナギ」と同じく、よく調べてみると「国際関係」との深い繋がりが見えてきます。

私たちの身の回りにあるモノ、日常の中で起こっているコト。考えてみれば、ますますグローバリゼーションが進展している現代において、「国際関係」と無関係のものを見つける方が難しいのかもしれませんが。国際関係学の知性とは、より豊かな現代社会を創りあげるための、そこで豊かに生きていくための術に他ならないのです。

本メッセージは、立命館大学国際関係学部・足立研幾教授が執筆した「ウナギから見る国際関係学」(『未来を拓く―ようこそ立命館へ』、2014年、立命館大学)を一部改変したものです。原文は立命館大学ウェブサイトで見ることができます。



Our Profile

3 プログラム

国際社会の理解に不可欠な「**言語、理論、地域研究**」の**3要素**を総合的に学ぶ国際関係学部。国際文化理解・国際協力開発・国際秩序平和の**3つのプログラム**から学びます。



1200 年の都 **KYOTO**

1200年の都、文化と歴史の街であり、**大学の町である京都**、衣笠キャンパスで学びます。



86 コマ **英語基準授業**

IR (日本語基準) 専攻とGS (英語基準) 専攻の2専攻制。日本語基準専攻で入学しても**80もの英語基準授業**にチャレンジできます。(2015年度。一定の語学力が必要です)



14 カ国+ **28** カ国・地域

14カ国から集った教員と28カ国・地域から集った244名の留学生がともに学びます。

学生の主な出身国：アメリカ、イギリス、インドネシア、エジプト、オーストラリア、韓国、中国、バングラディシュ、ウガンダほか



30 カ国、 **141** 大学・機関

多様な留学先・プログラムに挑戦できます。独自の研修、ボランティア等での海外渡航を含めると、大半の学生が海外プログラムに挑戦しています。



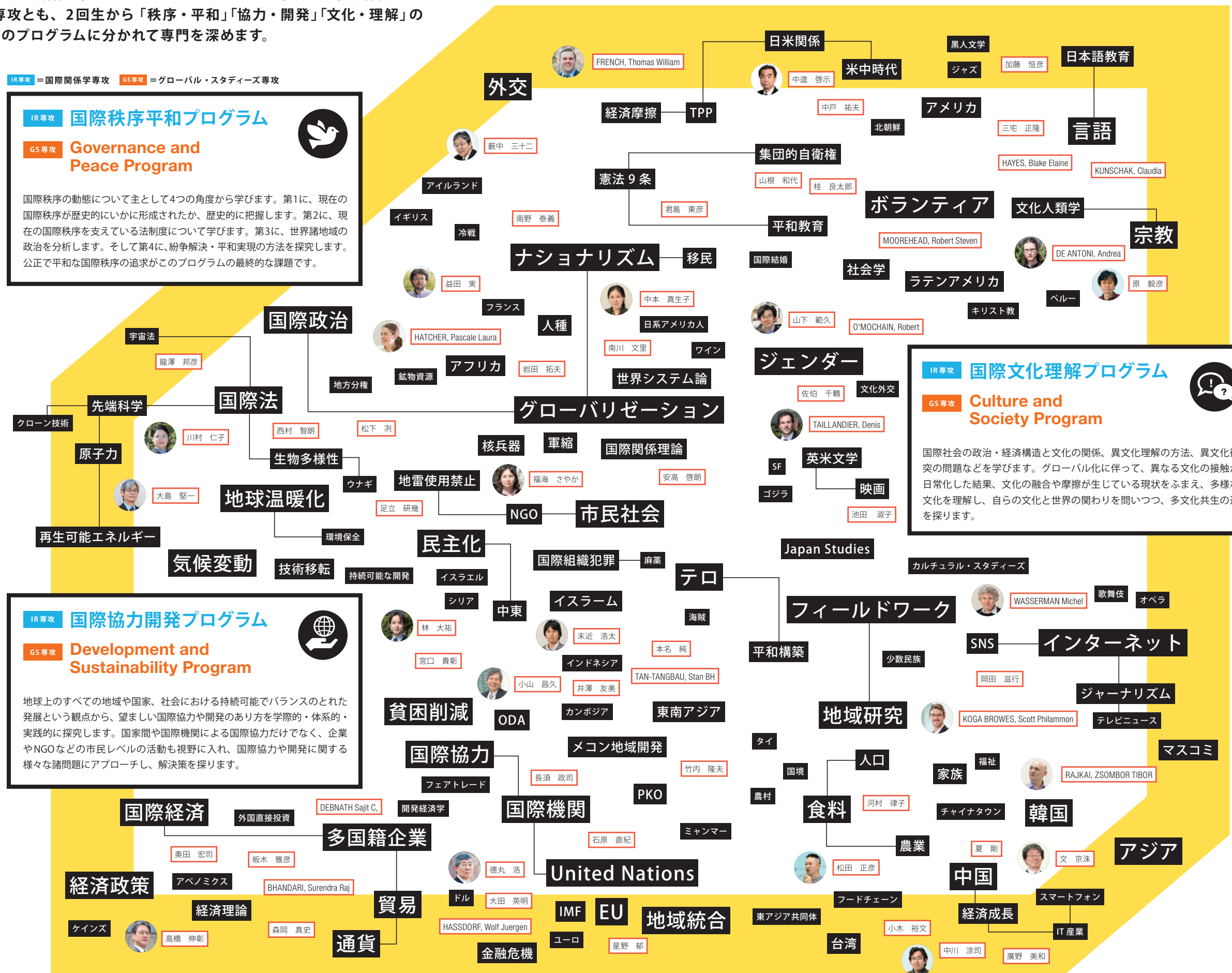
7500 人

グローバル企業、外務省、国際機関、NGOをはじめとした各分野で約**7500名の卒業生**が活躍しています。



国際関係学部の専攻は、国際関係学を主として日本語で学ぶ国際関係学専攻と、主として英語で学ぶグローバル・スタディーズ専攻の2専攻制。
両専攻とも、2回生から「秩序・平和」「協力・開発」「文化・理解」の3つのプログラムに分かれて専門を深めます。

☐ 国際関係学の研究分野や研究対象の一例
 ☐ 国際関係学部の教員



Q ● 立命館大学国際関係学部の特徴は何ですか？
他大学のグローバル／国際系学部や外国語学部とは何が違うのですか？

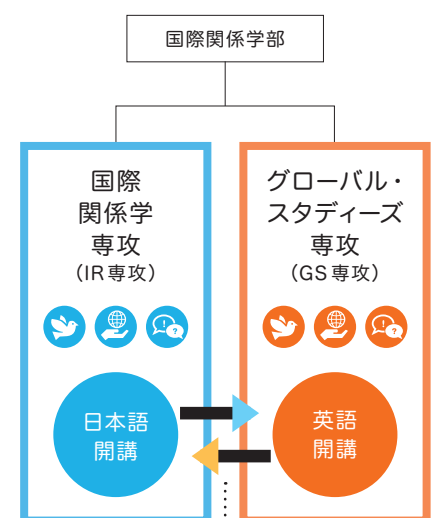
A: 立命館大学国際関係学部でも、豊富な留学プログラムや集中的な外国語教育を提供しています。それらに加えて、国境を越える問題を複数の学問領域を総合した「国際関係学」アプローチで分析する能力を養成します(2ページの「ウナギ」の話のとおり、現代社会では身近なモノやコトも世界と深く繋がっています)。「習得した外国語を使って伝えたいこと」を膨らませ、「国際的な舞台で成し遂げたいこと」を後押しします。

Q: グローバル・スタディーズ専攻 (GS専攻) とは何か？

A: GS専攻は英語による科目履修だけで修士学位が取得できる専攻です。海外大学で一般的な、事前課題による予習と教室での議論を組み合わせたスタイルで行われる授業も多くあります。

国際関係学専攻（IR専攻）の所属でもGS専攻の英語による専門科目を受講できますし、その逆も可能です（クロス履修システム）。

GS専攻とIR専攻とが相互に交流することで、京都に居ながらにして、国際的な学修環境を実現しています。



クロス履修システム

両専攻では、大半の科目で同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講。
各専攻の学生は、他専攻の科目を半分近くまで履修可能です。

Timeline 4年間の学び

国際関係学部の4年間を、
学年ごとのトピックとともに紹介します。



田中 美帆さん
国際関係学専攻／ケニア、アメリカで貧困問題や人権問題を肌で感じながら学ぶ。卒業後は社会起業に関わる仕事に就く予定。



岡安 智美さん
国際関係学専攻／社会科の教師を目指す。受け身では何も得られない。何事にも積極的に挑戦することで将来も見えてきた。



濱邊 ふうさん
国際関係学専攻／DUDPで2年間、アメリカン大学に留学し、この春帰国。現在は平和学に関心を持つ。



藤田 祥聡さん
国際関係学専攻／国際関係学部で学び、かえって日本や地域への愛着が増した。将来は日本や地元・広島県に貢献したい。



阪上 孟志さん
グローバル・スタディーズ専攻／GS専攻で英語力・国際力に磨きをかける。将来は海外に事業を展開する企業で培った力を生かしたい。



清水 雄太さん
国際関係学専攻／短期留学で訪れたオーストラリアに感動。就職後の夢は、オーストラリアに駐在すること。



山口智也さん
国際関係学専攻／国際協力NGOサークルの代表として国際ボランティアに参加。課外活動での体験を正課に活かしたい。

在学生のみなさんに、各学年それぞれのトピックの「ここが面白い!」を聞きました



国際関係に関わる問題には、「正しい答え」がないのが難しいところ。その中で話し合いを重ね、自分なりの「答え」を導き出す力がつきました。

GSの基礎演習ではたくさんの留学生と一緒に英語でディスカッションやプレゼンテーションを行います。発表する人だけでなく、クラス全体に積極的に発言する雰囲気がみなぎっています。

ディスカッションやプレゼンテーションを行うのは初めての経験。1年間でずいぶん鍛えられました。



一人でがんばるのではなく、グループのメンバーで調べる範囲を分担し、成果を持ち寄って一つの結論を導き出す。それが、楽しくも難しいところでした。



学部教員が執筆した教科書

基礎演習/Introductory Seminar

新入生は全員、「基礎演習/Introductory Seminar」の25名程度のクラスに所属し、教員や大学院生、先輩学生から大学での学び方・研究をすすめる手法・研究成果の発表方法などのスキルを学びます。基礎演習ゼミナール大会では、日・英混合で優勝を競います。



心強かったのが、サポートしてくれる大学院生のチューターの存在。先生より学生に近い視点でプレゼンの仕方や調べるポイントなどをアドバイスしてくれました。

1

回生

留学生と一緒に学ぶ

キャンパスでは多くの留学生とともに学びます。国際関係学部生のラーニングコモンズ“IRラボ”にいと、どの国で学んでいるかわからなくなること。



国連寄託図書館、国際平和ミュージアム、学習スペースIRラボ等国際的な学習環境が整っています。

オリターとして大縄跳び大会を企画して新入生同士の交流をはかったり、勉強方法をアドバイスしたり。活動を通して得たたくさんの友達、幅広い人脈は一生の財産です。



入学前の3月から先輩による学習相談を受ける機会もあります

留学生サポーターとして寮で2年間生活しました。多様な価値観、宗教、行動に驚く毎日。今では「どんな人に出会っても大丈夫」と思えるようになりました。



ピアサポート

国際関係学部では、新入生をサポートするオリターをはじめ、留学生サポートなど、多くの学生サポーターが活躍しています。多様な学生同士で支え合うことで、サポートする学生自身も大きく成長します。



〈言語〉と〈理論〉の基礎を育む

*『IRナビ』は国際関係学部ウェブサイトでも公開されています。是非アクセスしてみてください！

1回生は入学直後から「基礎演習/Introductory Seminar」のクラスに所属し、大学での学び方・研究をすすめる手法・研究成果の発表方法などのスキルを学びます。「基礎演習」の授業では、国際関係学部教員が執筆した『エティック国際関係学』や『IRナビ』を教科書として用いながら、国際関係学の考え方を身につけていきます。12月に開催されるゼミナール大会

では、クラス内の予選を勝ち抜いた代表チームが研究成果を発表し、優勝を競い合います。このように「基礎演習」と基礎科目の履修により、1回生は国際関係学「理論」の基礎を磨きます。また、「基礎演習」のクラスは4年間で共に過ごす仲間づくりの場でもあります。担当教員だけでなく、オリターと呼ばれる先輩学生や大学院生のチューターが生活・学修の両面をサポートします。

1回生の英語能力は、クラス分けされた「英語/Academic English」の授業を通じて飛躍的に向上し、留学に必要なレベルまで高められます。第2外国語（フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、日本語（留学生））も含め、語学は国際関係学部で学ぶための重要な基盤です。「本当に大変だったけれど、力がついた!」経験が、4年間の学びを支えます。

Q: 初めての一人暮らしで心配です。すぐに大学になじめるか不安です。

A: 1回生全員が履修する「基礎演習」は、少人数（20数名）で年間を通じて行われ、仲間作りの場として位置づけられています。そこでは担当教員だけ

でなく、「オリター」と呼ばれる先輩学生の有志グループも加わって、新入生の大学生活スタートを学修・生活の両面からサポートします。

自分はその国の人間ならどうするか。ふだんは日本の立場で考えがちだけれど、それを離れて客観的に考えることで、さまざまな立場・視点が見えてきました。



国際会議で条約を締結



NGOによるデモ行進

グローバル・シミュレーション・ゲーミング(GSG)

2回生全員が国際社会のキーパーソン役となり、国際交渉を疑似体験する実践型の授業です。学生一人ひとりが国連の事務総長や米国大統領、難民NGO代表、テレビメディアといったアクター（役割）に扮し、課題設定から政策立案、交渉過程、政策行使など、国際政治、国際経済の動きを実感しながら学習します。



国の代表として首脳陣と共に外交戦略を練る

ジャズクラブに所属し、ビッグバンドでベースを担当しています。2013年には全国の大学のビッグバンドが競う「YAMANO BIGBAND CONTEST」で、9位入賞の快挙を成し遂げました！



学生活動・課外活動

学内では、音楽やスポーツ等に加えて、留学生支援や国際支援NGOなど、様々なサークル活動が行われています。一人で海外に飛び出して、フィールドワークや国際支援活動に参加する学生も。

1回生の夏にモンゴルで住宅づくりのボランティアに参加。現場で体験したことがベースになり、授業での課題を自分なりの視点で考えられるようになりました。

専門的分野への第一歩と海外への挑戦

3つのプログラム（4ページ参照）から所属を選択し、より専門的な学びを進めます。2回生の一大イベントは、「グローバル・シミュレーション・ゲーミング（GSG）」です。環境問題や核開発問題など年毎に統一テーマを決めて、学生グループが政府や国際機関、NGO、メディアになりきって国際交渉をバーチャルで進行させます。実際の国際交渉のプロセスを読み解く力を身に

つけるだけでなく、コミュニケーション力やリーダーシップを育む機会でもあります。「IR/GSセミナー」では、各分野の古典/基本的文献に挑戦。担当教員のサポートを受けながら、文献を読み込むトレーニングを行います。2回生は挑戦のときでもあります。多くの学生が交換留学等の海外プログラムや、国際ボランティア等に参加しています。

僕はメキシコの大統領のアクターに。アメリカなどの大国とは違う立場で、国際社会の中でいかに存在感を発揮するか。そこが工夫のしどころでした。

各国の集まる「国際会議」にアルゼンチンのアクターとして出席しましたが、交渉は決裂。国際関係の難しさを体感しました。

アメリカのアクターとして他国と協定締結を進める一方で、マスコミに情報を提供するタイミングを計ったり、外交戦略を練るのがおもしろかった。



メディアアクターによるニュース配信

フリードマン、ケインズなど経済学の古典は、難しい！読解力がつきました。

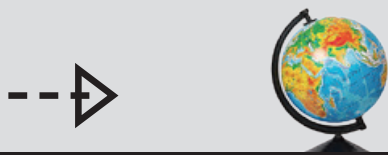
IRセミナー

2回生後期には、ゼミナール形式で各分野の古典や基本的文献に取組みます。一人では中々読解出来ない難解な文献に専門の先生やクラスメートに取組み、自分で学び、研究していくための基礎を築き上げます。

はじめて体系的に理論書を読む機会。みんなで意見を言い合うことで、自分にはない視点に気付かされました。

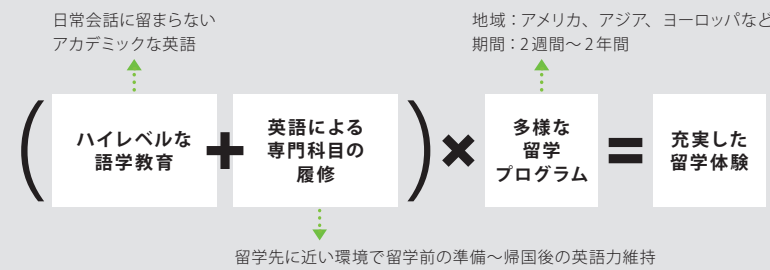


留学・国際ボランティアなど海外への挑戦については次のページで



海外留学プログラム + グローバルエデュケーション

国際関係学部には、多様な留学プログラムと、留学を充実させる学部独自の仕組みがあります。



海外留学プログラム

留学の目的や意義は、一人ひとり違うはず。立命館大学ではそれぞれの目的や状況に応じた多様な留学プログラムが提供されており、**世界30カ国・地域、141大学・機関**から留学先を選択できます（2015年2月末現在）。2014年度には**174名の学生が留学・国際プログラムに参加**したほか、ボランティアやフィールドワーク等、独自に海外渡航する学生も多数います。

海外留学プログラム

アドバンスト型

正規の学部留学、またはそれに匹敵するプログラムで、自分の専攻分野の学修を外国語で行うことを主要な目的としたプログラム。現地の正規学生と同様に授業を受け、単位を取得します。多くの国際関係学部生が、このアドバンスト型留学に参加しています。

代表的な留学・海外教育プログラム 留学期間 留学先

立命館・UBC「国際リーダー養成」プログラム 1年間 カナダ

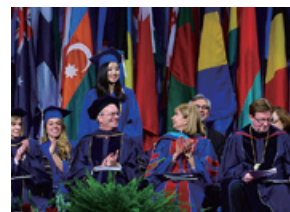
国際PBLによるイノベータ育成プログラム 5ヶ月間 インドネシア・タイ

交換留学 1年間 世界28ヶ国126大学

DUDP（学部共同学位プログラム） 2年間 アメリカなど

ラトガース大学、オクラホマ大学、ミネソタ大学（アメリカ）、ロンドン大学（SOAS、ロイヤルハロウェイ）（イギリス）、コペンハーゲン大学（デンマーク）、ヘルシンキ大学（フィンランド）、ベルゲン大学（ノルウェー）、パリ第7大学（フランス）、南京大学、上海交通大学（中国）、国立シンガポール大学、マレーシア科学大学、クイーンズランド大学（オーストラリア）、モンテレイ工科大学（メキシコ） など

国際支援に必要なビジネス系の授業を受講する他、アメリカの人種差別の実態についても学びを深めました。[交換留学：アメリカ／ウェスタンミシガン大学：1年間]



濱邊 ふう さん DUDP（学部共同学位プログラム）でアメリカン大学に留学：2年間

DUDPを希望したのは、アメリカン大学と立命館大学の二つの学位を取得できることはもちろん、2年間という長期にわたって留学を経験できることが大きな理由でした。最初の1年間は、語学力をしっかりと鍛えるとともに、大学での学びに集中。2年目には学んだことを生かしてさまざまな活動にも挑戦し、多様な経験を積むことができました。

アメリカでは平和紛争解決学について学びました。授業を受けるだけでなく、異文化間の偏見や紛争をなくすことを目指す学生団体“Peace of East Asia in Creative Engagement”を設立。中国・韓国・アメリカの学生を交えて歴史問題や領土問題などについて忌

憚なく議論する企画などを実施しました。またシンクタンクでインターンシップにも参加。アメリカの政治を垣間見る機会にも恵まれました。異国の地で、言葉も価値観も異なる学生たちをまとめ、団体を率いの中で、国境を越えて多様な人と協力する力、自分の意見や情報を相手に届ける力が身につきました。語学力を磨き、異文化への理解を深めるだけでなく、これからの人生の指針となるすばらしい学びと経験を得たことが、何よりの収穫でした。

Q：あまり英語に自信がなく、海外渡航の経験也没有ありません。留学プログラムに参加できますか？

A：海外留学プログラムは、十分なサポートを受けながら参加できる短期間の「イニシエーション型」から、一定の英語力を前提に正規学生として留学する「アドバンスト型」まで、幅広く提供されています。留学前の英語力向上をサポートする取り組みも数多く用意されています。入学後にしっかりと準備することで、あなたに合った海外留学プログラムがきっと見つかると思います。また、留学準備は国際教育センターが丁寧にサポート。留学を経験した学生が留学生アドバイザーとして留学相談に対応するほか、危機管理等についても事前に情報提供を行います。

グローバルエデュケーション

英語教育

「英語/Academic English」、「英語国際研究」（IR専攻のみ）といった科目においてコミュニケーションだけでなくアカデミックに読み、表現する能力を育成します。勉強は大変ですが、“Reading、Writing能力を共に伸ばせ、アカデミックな論文の書

き方について勉強させていただいたことは、留学中にとても活きました”といった声が寄せられています。

英語による専門科目の開講

グローバル・スタディーズ専攻の科目はすべて英語で開講されています。海外の大

学と同様の高いレベルの専門的な授業を留学生とともに英語で受講することが出来ます。多くの学生が留学前の準備や帰国後に授業を履修し、専門的な英語力や学修スタイルを磨きます。海外留学しなくても、海外の大学と同様に学ぶことが出来るのも国際関係学部の魅力です。

モチベーション向上型

交換留学に準ずるレベルで、語学力を高めながら外国語による講義をうけるプログラムです。特定のテーマについての講義やフィールドワークなどを行います。短期間から1年間まで幅広くプログラムが実施されます。

代表的な留学・海外教育プログラム 留学期間 留学先

海外スタディ 国際連合本部コース 2週間 アメリカ

立命館・UBCジョイントプログラム 8ヶ月間 カナダ

マコーリ大学「日豪関係」プログラム 7週間 オーストラリア

ワシントン大学「平和学」プログラム 15週間 アメリカ など



自分から話しかけ、イベントに参加し、現地の人とできるだけ接して語学力を磨くことで、短くも濃密な時間を過ごすことができました。[オーストラリア／マコーリ大学：4カ月]

ベネズエラ、メキシコ、サウジアラビア、中国、韓国から来た、様々な年齢の人々と授業でペアワークをすることが多く、お互いのことを知るきっかけとなりました。[カナダ／アルバータ大学：8カ月]

言葉はつたなくても積極的に話せば心を通い合わせることができる。2カ月間の留学でそう実感したことが、自信になりました。[オーストラリア／マコーリ大学：2カ月]



イニシエーション型

語学力の向上と異文化体験を主要な目的としたプログラムです。海外体験があまりない人や語学レベルが初級者向けの異文化体験・語学習得を中心とした短期研修です。

代表的な留学・海外教育プログラム 留学期間 留学先

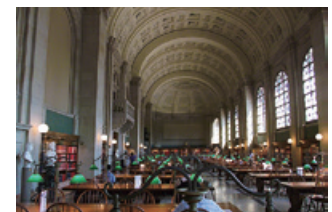
立命館・昭和ポストン「文化・社会調査」プログラム 4週間 アメリカ

異文化理解セミナー 4週間 15コース など

アメリカ、ドイツ、フランス、スペイン、メキシコ、中国等

夏休みを利用し、短期留学を体験。現地の政治学の授業で、「留学生も国際関係に影響を与える“ソフトパワー”だという自覚を持って」と言われた言葉が心に残っています。[アメリカ／立命館・昭和ポストンプログラム：1カ月]

夏休みの間で留学できるのが、短期留学のメリットかな。正課の授業への影響を気にしなくていい。



*派遣先等データはすべて2015年度のものです。

Q：留学費用について心配しています。奨学金等はあるのでしょうか？

A：大学が実施するプログラムには、プログラムの費用や期間等に応じて受給できる「海外プログラム参加奨励奨学金」があります。たとえば、1学年間の交換留学プログラムでは60万円が給付され、皆さんの熱意をサポートします（2015年度実績）。

Q：大学のプログラムにとらわれずに国際的に学びたい

A：大学が提供するプログラム以外で、長期休暇や休学*を利用して海外に渡航する学生は多数います。たとえば、ある学生は春休みを利用して一人でケニアへ渡航し、HIV感染者やその家族を支援する活動を自ら立ち上げました。また、自分の目的により適合した語学習得プログラムを見つけてそれに参加する学生もいます。国際関係学部は、このような学生の自主的な取り組みを応援しています。

*休学は、その理由をもとに審査・許可を受ける必要があります。



憲法から国際平和にアプローチする方法をゼミのみんなで考えています。国会決議に対して請願書を出すなど、「行動する」ゼミ。今は若者が参加しやすい平和運動はないかと、検討中です。

ゼミ (専門演習/Advanced Seminar)、ゼミナール大会 (Open Seminar)

少人数制の専門演習がスタートし、幅広い専門を持った教員の指導のもと、興味を持つテーマについて研究を進めます。個人だけでなく、ゼミごとで研究内容プレゼンテーションを行う「オープンゼミナール」も開催されています。オープンゼミナールは学生によって運営され、本戦には30社を超える企業が審査員として参加し、社会人ならではのコメントが寄せられます。

ゼミでは卒論のテーマについて、留学生と情報交換するのが恒例。海外の経済情勢をリサーチする際に留学生に尋ねる一方、日本についてはこちらが教え、互いにいい刺激を受けています。



ゼミナール大会の発表チーム

インターンシップ

国際協力機関や新聞社など、国際関係学部学びに深く関連する機関でインターンシップを行います。大学のインターンシップオフィス等によるプログラムを含めるとビジネス等、幅広い分野でインターンシップを行うチャンスがあります。

留学中のアメリカで、シンクタンクでインターンシップを経験。国会議員と話したり、アメリカの政治を間近に見る貴重な機会に恵まれました。

JICA札幌で2週間、広報の仕事やイベント企画に携わりました。中東やアフリカ、ラテンアメリカなど先進国とは異なるバックグラウンドの人たちと一緒に働き、ものの見方が変わりました。



3

回生



プロフェッショナル・ワークショップ

公務 (国際公務員や外交官、その他の公的な取組等)、ビジネス (国際的なビジネスなど)、ジャーナリズムという進路別に3種類のワークショップが開講され、学生は希望するワークショップを受講します。各ワークショップでは各界の最前線で活躍している講師から学びます。



ゲスト講師を招く授業では、私たち学生がアポイントを取って交渉します。社会人としてのマナーやコミュニケーションを学ぶ好機になりました。



プロフェッショナル・ワークショップ

各界の第一人者による特別講演会

各界の第一人者による特別講演会も随時開催されています。



これまでのゲスト (一例: 講師の所属、元職含む)

- 公務 …… 外務省、株式会社国際開発ジャーナル社、国連ボランティア計画
- ビジネス …… 日本マイクロソフト株式会社、株式会社ローソン
- ジャーナリズム …… 講談社、毎日新聞、ロイター通信

これまでに実施された特別講演会 (一例)

- ムハマド・ユヌス (グラミン銀行創設者・ノーベル平和賞受賞者)
- 高須幸雄 (客員教授・現国際連合事務次長)
- ツイリル・コザチェフスキ (駐日ポーランド大使)
- チャールズ・ムリガンデ (駐日ルワンダ大使)
- ブルース・ミラー (駐日オーストラリア大使) ほか

学びの深化: 実践と発信

多くの学生が留学から帰国し、学んだことの実践に向け動き出します。

少人数制の「専門演習 (ゼミ)」で卒業研究を開始します。個別に学ぶとともに、ゼミの仲間とグループ研究に取り組み、ゼミ対抗プレゼンテーション大会「オープンゼミナール」でその成果を競い合います。予選を勝ち抜いたグループは、企業の人事担当者等の前で報告を行います。

ビジネスや国際公務、メディアの「プロフェッショナル・ワークショップ」では、進みたい分野の最前線で活躍する講師からどのような力をつけるべきか、直に学びます。夏休みや春休みには企業や国際協力機関、新聞社等でインターンシップに取り組む学生もいます。社会の現場で学んだことを実践し、その経験をキャリア選択に活かします。



Q: ゼミではどんなことが学べますか?

A: 幅広い教員の専門分野を反映して、国際関係学部のゼミが扱うテーマは、国際政治、国際経済、国際協力・開発、国際社会など多岐多彩です。4ページにあげたキーワードも学べる分野や研究対象の極一部に過ぎま

せん。ゼミ合宿や実地調査等、学び方にもゼミ毎に個性があります。ゼミを選択する際には、先輩学生によるアドバイスが行われており、あなたの関心や学び方に合ったゼミがきっと見つかります。



「あなたの考えは?」を求められる授業。授業中は、ドキドキしっぱなしです!

当たり障りのない一般論より、自分の体験に基づいた意見、授業が活性化するようなおもしろい意見が評価されます。



GS科目の受講等

国際関係学部にはIR (日本語基準) 専攻、GS (英語基準) 専攻があり、日本語基準専攻の学生も英語での専門科目を履修することが出来ます。留学前や帰国後、継続して英語で学ぶ学生も多数います。



卒業論文

担当の教員の丁寧な指導のもと、約20,000字の大作に取り組みます。論文の作成を通じて、専門科目や留学等を含めた4年間の学びの総仕上げを行います。

過去の論文テーマ (一例)

- 平和学の視座から見るオリンピックの機能 — 平和的機能促進と暴力的機能縮減のために —
- 社会問題解決に向けた企業の社会的責任 (CSR) の考察 — 企業とNGOの連携の可能性と課題 —
- 気候変動における資金問題と緑の気候基金の展望 — COP19 ワルシャワ会議を終えて —

英語で日本銀行の金融緩和について書くつもり。アカデミックな英語の書き方を学んできた集大成です。



キャリアサポート

「学生一人ひとりの希望する進路・就職の実現」に向け、キャリアオフィスの専門スタッフが丁寧にサポートを行います。各業界や、留学経験者や外資系企業希望者方、など多様な目的別サポートが行われています。就職活動を終えた先輩によるアドバイス等も行われています。公務員試験や資格取得を目指す学生には、エクステンションセンターが多様なプログラムを実施しています。

教員を目指す学生は、教職支援センターが丁寧なサポートを受けられます。中学校教諭一種 (社会)、高等学校教諭一種 (公民) が取得できます。

エントリーシートの添削や模擬面接で、実際に企業で人事を担当されていた方々からアドバイスを受け、非常に勉強になりました。



4

回生



「国際関係」というトピック自体が現在進行形で変化していく。何を学んでも答えがないから面白い。学問として、とても魅力があると思います。



留学に行くにも制度的にも国際関係学部は挑戦しやすく、世界にも出ていきやすい。価値観が広がる学部だと思います。

国際関係学部の4年間を振り返って



やる気のある学生が本当に多く、ラウンジで何時間も議論を続けることも。考えをぶつけあうことで、お互いに高められたと感じています。



高校では自分の将来を決めきれない人にこそ来てほしい。入学してから可能性が広がる、いろんなチャンスが見つかる学部です。



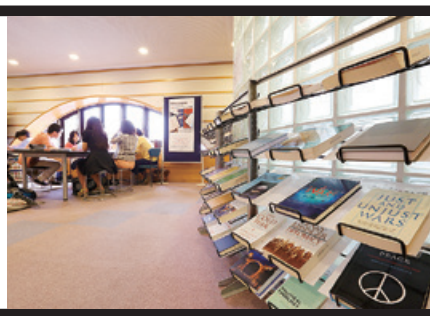
入学してから、国際関係学部を選んで間違いだったと思ったことは一度もない。いつも面白い、刺激的な場所です。

キャリア選択と学びの集大成

キャリア選択 (就職活動) と大学での学修の両立のため、立命館大学キャリアオフィスの専門スタッフがひとりひとりの学生を丁寧に支援します。就職活動中は東京や大阪のキャンパスでも、支援が受けられます。オンキャンパスで行われる就職セミナーや企画も多数開催しています。

卒業論文の執筆を通じて、国際関係学部で

学んだ成果を形にすることは将来のキャリア形成にとっても重要です。4回生は担当教員やゼミの仲間と意見を交わしながら、自分の学びの集大成として卒業論文を仕上げます。4年間の学びは社会人として成長していくための基盤になるのです。



Q: 留学をしなくても充実した学生生活を送ることができますか?

A: 国際関係学部では、学生一人ひとりに適した学びのスタイルが見つかります。留学プログラムに参加しなくても学内で英語での授業や留学生支援のボランティアに参加して、国際的なコミュニケー

ション力を磨いたり、部活動、サークル活動やボランティア活動に熱中しながら国内中心で学んだ先輩もおり、それぞれ活動を通じて成長し、就職の際にも高い評価を受けています。